

教員養成の目標 (こども教育学科 幼稚園)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	まず「日本国憲法」を履修し、「初年次演習」での見学実習、「保育・教職入門」での教師像の学び、「教育・保育のための子ども学」での教員に求められるジェネリックスキルの基礎の学びを通して、教育の現場での実際的取り組みの現状と課題のアウトラインを把握し、将来求められる教員としての資質と能力について理解を深める。また「保育・教職入門」では、特に幼小接続の意義についても理解を深める。更に「保育内容 環境」を1年次前期にまず履修することで、幼児教育内容の演習を通じて、幼児教育を4年間学んでいくことの楽しさについても実感する。基盤教育科目から「人権論」を履修することにより、教員に求められる子どもの権利擁護の視点を修得する。
	後期	幼児教育につくことへの意欲と使命感を確実なものとするため、「教育原論」を「保育原理」と並行して学び、幼児教育の原理・原則を修得する。また、初年次における現場往還教育の展開として、「こども教育学基礎演習」では、保育者の実際について、現場見学実習の継続や現場からのゲストスピーカーの招聘などによって、保育・幼児教育の現場からの学びを深める。この現場からの学びと並行して、基幹講義である「教育制度論(幼)」を同時に学び、教育課程の学修への導入として、教育制度の背景となる理念や根拠となる法律、改革動向などの教育制度上の枠組みについての理解を深める。内容演習では、「遊びと育ち実践演習」において、幼児の特質としての「遊び」を徹底してアクティブに学び、幼児理解や幼児教育を学ぶ事への動機付けを更に強化する。
2年次	前期	2年次から、保育5領域の学修が開始される。前期では、そのうち健康・人間関係・環境の3領域に関する科目を履修し、幼稚園教育要領に基づく幼児教育学における根幹をなす専門知見への学びを開始する。教育に関する基本領域としては、「教育課程論」を履修し、5領域に関する教育内容と並行学修することにより、幼児教育課程への理解を深める。幼児教育に必要な技術として器楽と造形に関する実践演習を行い、幼児教育に必要な教育技能も修得する。並行して開設されている保育士課程の科目である「保育の心理学」を履修することで、2年次後期に開講される子ども理解のための基礎科目学修へのつなぎとしている。
	後期	後期では、前期に引き続き保育5領域の内の表現ならびに言葉領域を学び、5領域への学修が完結される。また、「心身の発達と学習過程」「子ども理解の理論と方法」を履修し、教育主体であるとして子ども理解のための基礎学習を完結させる。幼児に関する学修は、並行して開設されている保育士養成課程の各科目の履修がすでに始まっており、相互補完する形で幼児教育への学修を深める。保育内容の演習としては5領域の内の「表現」と「保育内容総論」を取り扱い、実践力の修得を開始する。4年間一貫して展開する現場往還教育では、「保育インターンシップ」によって学生が自発的に幼児教育の現場から学び、並行して保育実習指導(保育所)が開始され、学期終了後に保育所実習を行う。このことにより、保育者として実際に求められることを、保育現場から総合的に、インターンシップや保育実習体験を通じて学び始める。
3年次	前期	3年次からは、教員として活躍できるためのアドバンストな実践教育が開始される。前期では保育内容の演習として、「人間関係」「言葉」の領域を取り扱い、子ども理解に関しては「発達障害」に関する学習も行い、後期の教育実習に備える。現場往還教育としては、保育士養成課程における「保育実習指導 I (施設)」「保育実習 I (施設)」を履修し、幼児だけでなく社会的養護や障害児などの子ども福祉の現場に参加して、子どもの援助者としての実体験を一層深める。更に3年次からは、本学の養成カリキュラムの特長である「個々の子どもや家族などを理解し、それに応じた対応や支援が出来る」ために、保育士課程の「子ども家庭支援論」「子ども家庭支援の心理学」や、様々な教育周辺領域に関する知見を深めて学ぶ「発展領域」の各科目の履修が開始され、力ある教員としての資質の取得をめざし、後期の教育実習に備える。
	後期	「保育内容 健康」を履修し、5領域に関する保育内容の演習が完結する。教員としての実践的な資質を高めるために、「教育方法論」「教育相談の理論と方法」を学修する。3年次後期には教育実習に参加する。「教育実習事前事後指導(幼)」において、教育実習の意義・目的・内容・心得などについて確認し、これまで学んできたあらゆる知識とスキルを動員し、幼児教育の現場に参与することへの自覚と責任を持つ。「教育実習(幼)」での観察や教育を通して、保育方法、保育計画、子ども理解、教育相談、幼稚園運営、保護者や地域との関係づくりなどを多岐にわたり実践的に学ぶ。実際の教育臨床において様々な実体験をもとに指導を受けることによって、教師としての資質の向上と教師力の涵養を図ることを目標とする。「教育実習事前事後指導(幼)」において、教育実習における各自のポートフォリオを振り返り、成果と課題について確認し、教職・保育職につく事への動機付けを高める。この学期には、教育の基礎科目として「教育方法論」を学修し、教育実習等での成果を重ねて考察を深める。

4年次	前期	4年次では、4年間連続する現場往還教育の仕上げとして、保育士養成課程で定められた、より高度な保育所実習または施設実習に参加し、保育者としての現場実践学修を積み重ね、各自の専門特性を省察しながら、卒後の進路選択を行う。並行して個々の子どもの背景をより深く理解するため「特別支援教育概論」を履修する。また、3年次から開始している「発展領域」の各科目の履修について更に自発的な履修を継続し、卒業後の教育・保育専門職に求められる「学び続ける」姿勢と学びの方向について態度形成していく。併せて4年次ゼミの中で、本学科生として学び続けてきたことを基盤として、卒業研究に着手する。
	後期	「保育・教職実践演習(幼)」によって、4年間の学びを総合的に振り返り、教職・保育職として力を発揮できるための総合的演習を行う。履修カルテを振り返り、現場にとって最も必要な力が身についているかの総点検が必要である。前期に着手した卒業研究について更に深め、真理探究のために研究することについての姿勢と手法を習得し、卒業論文を仕上げ、4年間の学問的学びと実践を総括し、力ある専門職としての資質向上に資する。取得した各種専門資格について、その専門性や役割、求められる社会的使命や倫理観などについて再度省察を深める。